

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04070

研究課題名(和文)持続可能な少子高齢社会に関する社会学的研究 コミュニティケアの多機能化を中心に

研究課題名(英文) Sociological study on Sustainability of low birthrate and aged society

研究代表者

魁生 由美子 (Kaisho, Yumiko)

愛媛大学・教育学部・准教授

研究者番号：70331858

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は2016年度から4カ年の期間、国内外で行った現地調査を中心とする実証研究である。大別すると(1)京阪神地区における在日コリアン高齢者を対象とする福祉サービスから展開したコミュニティケアの最新の動向、(2)近年、韓国で推進されるコミュニティケアに関する政策動向と地域サービス、(3)地方の地域福祉を支える多様なアクターに関する現地調査である。

在日コリアン集住地域においてニーズに即応してきた福祉系NPO等が、多様な組織・団体と協働し、より普遍的なコミュニティケアの拠点となっている。韓国では、政府のイニシアチブのもと、社会福祉協議会等福祉系組織が担う役割の再点検と連携強化が進んでいる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域福祉の分野で先進的な取り組みを行っている事業所を訪問し、デイサービスの現場に参加する等、参与観察の方法を用いて現地調査を行い、キーパーソンを対象としたインタビュー調査を行った。これらのデータを収集資料と照合し、学会報告及び一般公開の講演会で公開し、論文執筆を行った。

福祉社会学、地域福祉学等におけるボランティア、NPO活動に関する先行研究を踏まえ、小地域で実働するコミュニティケアの現段階における成果と意義を明らかにした。公助と自助の中間領域としての共助を地域住民の活動により自律的に構築してきた在日コリアン高齢者福祉を中心とする社会事業は、今後の福祉社会の仕組みづくりに重要な示唆を有する。

研究成果の概要(英文)： This study is an empirical study focused on field surveys conducted in Japan and overseas for four years from 2016. Broadly speaking As follows, (1) The latest trend of community care developed from welfare services for elderly Korean in Japan 'Keihanshin' western area, (2) 'Torbon' in Korean, that is, South Korean government published Policy related to community in recent years, (3) Field survey on various actors that support local community welfare.

The welfare NPOs who have responded quickly to needs of Korean elder in Japan are becoming a more universal community care base as they collaborate with various organizations and groups. In South Korea, under the initiative of the government, reexamination of the role on welfare-related organizations such as the Council of Social Welfare and strengthening of cooperation are progressing.

研究分野：社会学

キーワード：日韓比較 在日コリアン高齢者 ピア関係 ボランティア NPO 地域連携 猪飼野 デイサービス

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、少子高齢社会を支えるための社会福祉サービスとその担い手について明らかにする。官公庁が公表するデータ等、客観的データを参照しつつ、国内外の実践事例を収集する現地調査を中心とする実証研究としてスタートした。

日本は65歳以上の高齢者の人口比率が世界でもっとも高い超高齢社会である。研究開始当初のデータを概観しておく、2016(平成28)年10月1日時点の高齢化率は27.3%で、約10年後には30%台になり、将来的には40%近くに達すると推計されていた。またその後約15年は65歳から74歳の前期高齢者の人口が減少期に入り、75歳以上の後期高齢者が増加すると見込まれていた。「平成29年版高齢社会白書」後期高齢者の増加に伴い、認知症等により手厚い地域支援を必要とするケースも増大する。2012(平成24)年時点の認知症患者数は462万人であり、65歳以上の高齢者の7人に1人(有病率15.0%)であった。2025(令和7)年には約700万人、5人に1人になると見込まれており、介護ニーズはさらに増大すると予想される。

2008(平成20)年に1億2,808万人とピークに達した人口は、その後減少が続いている。明治以降の急激な人口増加を経て、「今後は一転して人口減少社会へ突入し、我が国の人口は急勾配の下り坂を降りていくことが見込まれている」。

15歳から64歳の人口は2000年代に入って以降、微々増がみられる年があるものの、減少が続いている。女性の合計特殊出生率は、1989(平成元年)年の1.57ショック以降漸減し、2005(平成17)年1.26が2018年2月現在までの最低数値となっている。その後2017(平成29)年の推計値1.44まで上がってはいるが、実際の出生数は減少が続く。2017年の人口動態統計の年間推計によると、出生数は94万1千人であり、100万人を2年連続で下回った。日本社会はすでに縮小化の局面に入っている。

(2) 研究期間終了時点の直近のデータと対照しておきたい。「令和元年版高齢社会白書」によると、2018(平成30)年10月1日現在の高齢化率は28.1%である。2025(令和7)年度には30%台になり、将来的には40%近くに達すると推計されている。また、令和7年度以降は、65歳から74歳の前期高齢者の人口が減少期に入り、75歳以上の後期高齢者が増加すると見込まれている。

女性の合計特殊出生率は、3カ年連続で下がり、2018(平成30)年の推計値1.42となった。実際の出生数も減少が続き、2018年度の出生数は過去最低91万8千人となった。日本社会はすでに恒常的な人口減少社会の局面に入っている。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究は、日本の少子高齢社会化に対応する地域福祉の再編成、特にインフォーマル部門の直近の動向を把握することを目的とする。近年、「地域包括ケアシステム」を推進する社会福祉においてコミュニティケアへの重点化が進み、また行政主導の縦割り型から多様な運営母体が地域の必要に応じて展開する多機能型へと転換が進められている。

(2) 本研究の対象は3つに大別することができる。(a)多機能型のひな型となった活動を、1970年代以降の共同保育や在日コリアンを含む識字教室等に遡って再検討する。(b)新たな生活支援の必要に対応する中で、高齢者ケア、障がい者支援、子ども・女性支援等へと活動を多角化し、さらに国内外のネットワークと連携して支援体制の知見を蓄積・拡充しつつある地域福祉の再編成について直近の動向を把握する。(c)本研究による成果を、論文の公表、一般に公開するオープンな講演等の方法により、地域社会へと還元する。(a)から(c)を4カ年の研究期間内に進捗させることができた。

### 3. 研究の方法

(1) 日本国内および韓国において現地調査を行い、とくに先進的な取り組みを行っている地域福祉の事業所を訪問し、デイサービスの現場等に参加する等、参与観察を行った。また、それら調査協力を得た各事業所のキーパーソンを対象としたインタビュー調査を行った。経年的な調査を行っている在日コリアンの集住地域である大阪市生野区ではNPO法人聖公会生野センターが行っている在日コリアン高齢者を対象としたデイサービス「のりばん」に参加し、代表者とボランティアのメンバーに聞き取り調査を行った。韓国ソウル市恩平区においては社会福祉法人幸福創造の全面的協力を得て、法人が市の委託により運営する老人福祉館を訪問し、館長はじめ社会福祉士等スタッフの聞き取り調査を行った。いずれの調査においても聞き取りデータとともに、施設や活動の様子を写真撮影を行い、データとして収集を行った。被写体の判別が可能な写真については、研究倫理規定等に従い厳密に取り扱いを注意した。これらの調査により収集した資料の精読と分析を経て、単著3、共著2の論文執筆とすべて単独による学会報告3、講演会等2の公表を行った。

(2) 福祉社会学、地域福祉学等における近年の地域福祉研究および、とくにボランティア、NPO活動に関する市民運動論の蓄積に立ち返りながらメゾレベルの地域、さらに徒歩可能圏内の規模の小地域に着目した。それら活動におけるケアの工夫や特徴を具体的に把握し、調査協力者との共著により論文を執筆した。また、地域福祉における住民参加を促す仕組み、行政との連携構築について特に重点的な資料収集を行い、論文に盛り込むことができた。日韓の地域福祉におけるボランティアの役割とその背景にあるコミュニティケア政策について、それぞれ直近の政策動向を調べ、福祉現場の動向とあわせて整理を行った。また、韓国ソウル市における地

域福祉の現況について、愛媛大学外国派遣研究員制度による現地調査(2018(平成 30)年 9 月 4 日から 2019(平成 31)年 3 月 31 日)で集中的な調査を行うことが可能となった。この韓国調査のため、研究期間を当初の3カ年から4カ年へと変更を行った。

(3) 以上のような方法で行った先行研究のレビューと現地調査の結果を総合し、超高齢社会における住民主体の地域福祉を実現する方法について現地報告会等で報告し、地域社会にフィードバックを行った。

#### 4. 研究成果

(1) 国内最大の在日コリアン集住地域である大阪市生野区の高齢化の状況(2016年9月末)は、全体で高齢者率29.8%、外国籍住民の高齢化率は25.3%であった。一世帯当たり人員を見ておくと、大阪市全体で1.86人、大阪市生野区は1.86人、同区の外国人住民だけで見ると1.57人であり、高齢者のみの単独世帯が多いのは外国人住民であることがわかる。地域の在日コリアン住民の割合は約2割であるが、高齢者を対象とした福祉サービスは、日本人の利用を想定したもので、在日コリアン高齢者の食事や娯楽を考慮したサービスは、現在でもほぼ皆無である。

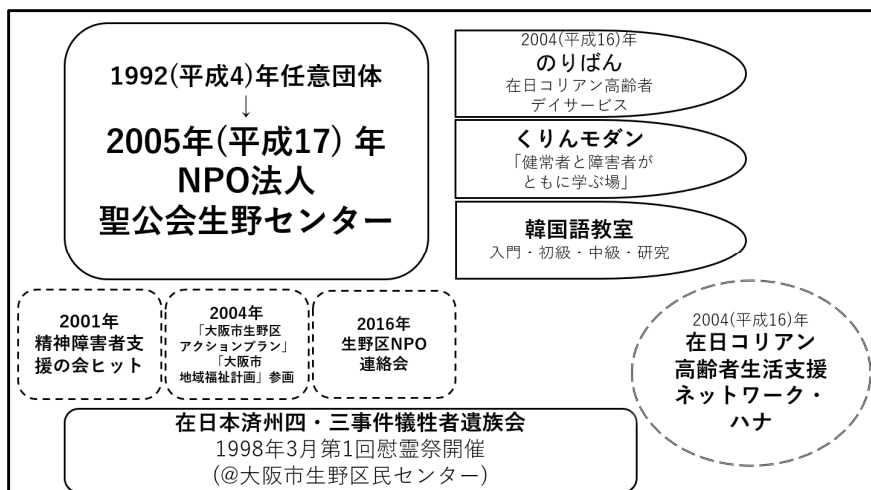
1990年代後半から、大阪市生野区とその近辺でNPO法人等が在日コリアン高齢者を対象としたデイサービスを草の根的に開始し、20年余りの実績を積んで現在に至る。本研究で複数回の訪問調査を実施したNPO法人聖公会生野センターが運営する「のりばん」(図1)は、2004(平成16)年にデイサービスを開始した。



(図1)「のりばん」チラシ

聖公会生野センターが実施する福祉事業は、1)在日コリアン高齢者を対象とするデイサービス「のりばん」、2)精神障がい者等を対象とする美術教室「クリンもだん」、3)大阪市生野区社会福祉協議会による地域福祉活動計画策定への参画、4)大阪市生野区NPO連絡協議会への参画、5)その他である。(2)の「クリンもだん」は大阪市地域活動支援センター事業(活動支援B型)として運営しており、原則毎日開所している。

(2) 少子高齢化が進み、縮小社会が現実化した日本および韓国では、今後さらなる膨張が見込まれる社会保障費を抑制できるコミュニティケアが政策的な指針となっている。コミュニティケアでは、ボランティアを典型とする地域の自律的な福祉活動を活性化することが目指されるが、縮小する地域コミュニティを新たに形成するという効果も見込まれている。日本では「地域包括支援システム」の構築が目指されており、いわゆる「自助、互助、共助、公助」における互助の領域でボランティアの参画が期待されている。「平成25年3月地域包括ケア研究会報告書」によると、「公助」は税による公の負担、「共助」は介護保険などリスクを共有する被保険者の負担であり、「自助」には「自分のことを自分でする」ことに加え、市場サービスの購入も含まれる。これに対し、「互助」は相互に支え合っているという意味で「共助」と共通点があるが、費用負担が制度的に裏付けられていない自発的なものであると説明されている。共助は公助と自助の間にある地域の助け合い・相互扶助であるという従来の定義を意図的に改変していることがわかる。国庫支出により運用する公助の領域であるはずの社会保険を「共助」としたのである。そうすることにより、社会保障の大部分は「共助」とみなされ、残余の「公助」は「選別的・救済的施策」に最小化される。本来の共助である地域の助け合い・相互扶助には「互助」という新たな名称が与えられた。これらは2006年度版『厚生労働白書』前後から現在に続く、新自由主義的動向である。



(図2)

(3) 聖公会生野センターによる活動は、地縁・血縁のつながりから発展し、ボランティア・NPO を活性化しようとする政策的背景の中で行政や地域の関係機関との連携を深めてきた。さまざまな活動を図示すると、地域福祉の民間拠点として機能している様子がわかる(図 2)。

聖公会生野センターの活動の端緒は、無年金の在日コリアン 1 世を典型とする、在日コリアンを年金保険等の社会保障から排除したことから生じる福祉の空白に対する相互扶助的な対応であった。福祉社会学の先行研究が批判的考察を行ってきた行政の下請けではなく、制度のリーチが届かない地域住民の生活に対して自律的かつ創造的な活動を行うことが、この NPO の動機であり、大きな特色である。だからこそ、在日コリアン高齢者デイサービス「のりばん」は、公的補助を利用しない自主事業として運営を行ってきた。ピア関係の相互扶助という側面が強い高齢者サービスとともに、地域で生活する障がいをもつ市民へのサービスを行う。本研究は、以上のような経年的活動が、コミュニティケアの萌芽となりえていることを明らかにした。

(4) 韓国におけるコミュニティケアは「地域社会統合トルボム基本計画」(2018 年 11 月)として推進されている。「トルボム」とはケアという意味の韓国語の固有語である。社会保障を抑制するという政策的意図は一面で、いわゆる「公助」を補足するための「共助」ないし「互助」としての地域の福祉活動を利用し、促進することにもつながる。ポジティブにみるならば、一定の条件の範囲で、実行可能な地域活動を住民主体で進めていくセツルメント活動の系譜を継ぐ活動であり、ケアできるコミュニティづくりを目指す活動であるといえる。韓国で社会福祉の整備が始まる時期であった 1990 年代後半から自主事業を立ち上げた社会福祉法人幸福創造の前団体は、まず独居高齢者の生活サポートから活動を開始した。事業開始から約 20 年を経て、現在は多くの委託事業を運営する地域福祉のリーダーシップを担う法人に成長した。高齢者の生活支援を行う老人福祉館では、最新の通信機器を担当ワーカーが携行し、利用者の生活動作や室温を 24 時間体制で確認する徹底した安否確認を行い、定期的な副菜の配達、誕生日のバースデーケーキ等、孤立を予防するための見守り支援が行われている。

(5) 政府によるボランティアの奨励とインセンティブの制度化、学校と職場におけるボランティア文化の成熟等を見ると、相互扶助としての共助の領域を充実・拡大させていく政策において、韓国は日本より格段に進んでいる。たとえば、最低賃金程度を支給する有償ボランティアを推進しており、失業率の高い若い世代にも日常的な選択肢としてボランティアが受容されている。非営利と営利の中間点で、社会貢献を活性化することで、社会保障支出を抑制しつつ福祉のマンパワーを循環させる仕組みである。このような背景から韓国の福祉現場には必ずボランティアが入っている状態であり、会社員、地域の主婦、学生、兵役免除者等、多様な市民がボランティア活動に携わっている。老人福祉館や、高齢者居住施設における語学や「ほほえみ教室」等プログラムの講師も、調査した限りではすべてボランティアである。韓国では、自分の能力を無償で提供するボランティアを「才能寄付」と呼び、非常に活発である。シニア就労を促進する団体が、退職教員、書道や工芸等地域のアーティストを登録制で確保し、必要に応じて派遣する仕組みが整っている。

(6) 日本の地域においてもボランティアの先進事例はある。例えば、施設を拠点としたコミュニティケアで知られている特別養護老人ホーム園田苑では、ボランティアグループ「園」が記念誌を発行するほど活発な活動を続けている。「園」での活動歴が約 30 年になったというベテラン女性は、「ボランティアは自分たちの地域をつくる活動であり、自分のための活動である」と語る。2018 年 12 月、韓国明治大学の福祉専攻の学生グループが日本の高齢者福祉の現場を学ぶために特別養護老人ホーム園田苑を訪問した。韓国と日本の調整は、平成 30 年度愛媛大学外国派遣研究員として社会福祉法人幸福創造に滞在中であった筆者が行い、園田苑のある兵庫県尼崎市における通訳兼案内としては地域の在日コリアン市民がボランティアで対応した。日韓の社会福祉が学術、現場職員、訪問者等さまざまなレベルで交流することにより、双方の政策動向と現場の知恵を学びあうことができる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

|                                       |                      |
|---------------------------------------|----------------------|
| 1. 著者名<br>金玄勲・魁生由美子                   | 4. 巻<br>66           |
| 2. 論文標題<br>ケアの現場で何を学ぶか？               | 5. 発行年<br>2019年      |
| 3. 雑誌名<br>愛媛大学教育学部紀要                  | 6. 最初と最後の頁<br>91-100 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-            |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>魁生由美子                                    | 4. 巻<br>14        |
| 2. 論文標題<br>ソウル市恩平区における社会事業の事例研究 コミュニティケアへ、20年の実践から | 5. 発行年<br>2019年   |
| 3. 雑誌名<br>愛媛大学地域創成研究センター『地域創成研究年報』                 | 6. 最初と最後の頁<br>0-0 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                      | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）              | 国際共著<br>-         |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>魁生由美子   | 4. 巻<br>13         |
| 2. 論文標題<br>少子高齢社会における地域福祉の多機能化 在日コリアン高齢者のデイサービスから展開するコミュニティケア | 5. 発行年<br>2018年    |
| 3. 雑誌名<br>愛媛大学地域創成研究年報  | 6. 最初と最後の頁<br>1-14 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                                 | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                         | 国際共著<br>-          |

|                                       |                       |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>前田忠弘、魁生由美子                  | 4. 巻<br>37            |
| 2. 論文標題<br>福祉につなぐための刑事施設医療のあり方        | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>矯正講座                        | 6. 最初と最後の頁<br>211-238 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>魁生由美子                                     | 4. 巻<br>63            |
| 2. 論文標題<br>愛媛県西条市における多様性の学び方 地域から学校へ/教室から地域へをつなぐ諸活動 | 5. 発行年<br>2016年       |
| 3. 雑誌名<br>愛媛大学教育学部紀要                                | 6. 最初と最後の頁<br>253-262 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                      | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)               | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 2件/うち国際学会 1件)

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>魁生由美子                          |
| 2. 発表標題<br>在日外国人の地域支援 在日コリアン集住地域のコミュニケアから |
| 3. 学会等名<br>日本社会病理学会第39回大会                 |
| 4. 発表年<br>2019年                           |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>魁生由美子                                |
| 2. 発表標題<br>A隣保館による多文化共生の取組み 「勉強会」と「ふれあい祭り」の事例から |
| 3. 学会等名<br>関西社会学会第69回大会                         |
| 4. 発表年<br>2018年                                 |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>魁生由美子   |
| 2. 発表標題<br>地域福祉の多機能化と連携に関する事例研究 在日コリアン高齢者のデイサービスから展開するコミュニケア |
| 3. 学会等名<br>韓国社会福祉学会春季学術大会(招待講演)(国際学会)                        |
| 4. 発表年<br>2017年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>魁生由美子                         |
| 2. 発表標題<br>高齢者の福祉 - 沖縄出身者、在日外国人の生活支援から学ぶ |
| 3. 学会等名<br>内子町人権・同和教育研修会（招待講演）           |
| 4. 発表年<br>2016年                          |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|  | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|  |                           |                       |    |